

そらのとり

岩見沢聖十字幼稚園だよりNo. 11

2024年1月30日発行



1月の聖句

『息あるものはこそって主を賛美せよ ハレルヤ』

(詩編150編6節より)

旧約聖書における「聖歌集」ともいべき詩編は全150篇で構成されています。各詩編は旋律を伴い歌われたと考えられています。どのような旋律だったか解明されていません。その最後のしめくり、詩編150編の結びの言葉です。古代キリスト教会において「歌う人は、倍、祈る」という格言がありました。きっと息あるもの、こそって神さまを賛美するなら、その祈りはすべてを包み込み平和が与えられることなのでしょう。歌うものには調和をもたらすことなのでしょう。「倍」ですから。

わたしは、聖十字幼稚園のこどもたちが聖歌をうたう、その歌声に癒され、平和をいただけてきました。礼拝において共に歌うこどもたちの歌声は、単なる合唱ではありません。何倍もの、主を賛美する祈りでもあり、希望の歌でもあるのです。

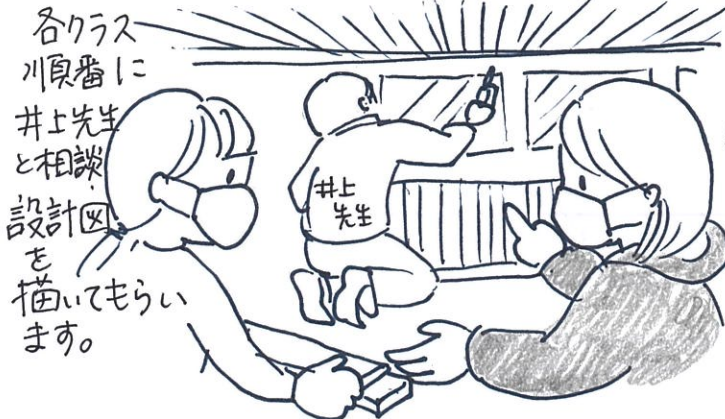
今、もっとも寒い一月下旬、でも雪の下には春を待ついのちが土の中で眠っています。こどもたちの賛美で、春、目を覚まし、共に賛美する日が必ずや来ます。

チャプレン 司祭いけだとおる

いつも小樽から岩見沢に通って下さるチャプレンですが、今年に入って体調を崩され、検査中です。今後の誕生会や行事には、代替りの司祭様が来られる場合もありますが、どうぞご了承ください。

どこが変わったかわかったかな?

冬休み中の1月11日~12日の2日間、室内の環境を見直し整備が行われました。



各クラス順番に井上先生と相談設計図を描いてもらいます。

みんなはじぶんのおへやどこが変わったかわかったかな?

どのクラスも担任の先生たちや支援の先生が真剣に今の子どもたちの様子を伝えるから、どんな力をつけたのか頭を悩ませつつロフトのチェンジをしてみました。



木村先生 せはり半袖

新学期すの1月19日(金)冷たい強い風が吹く中、雪中レクが行われました。

やる気満々!雪中レク

山の斜面が寒すぎてツルツルして小さい子は登るのが大変でした。

しろくまちゃん、こぐまちゃんは、斜面に苦戦してました。

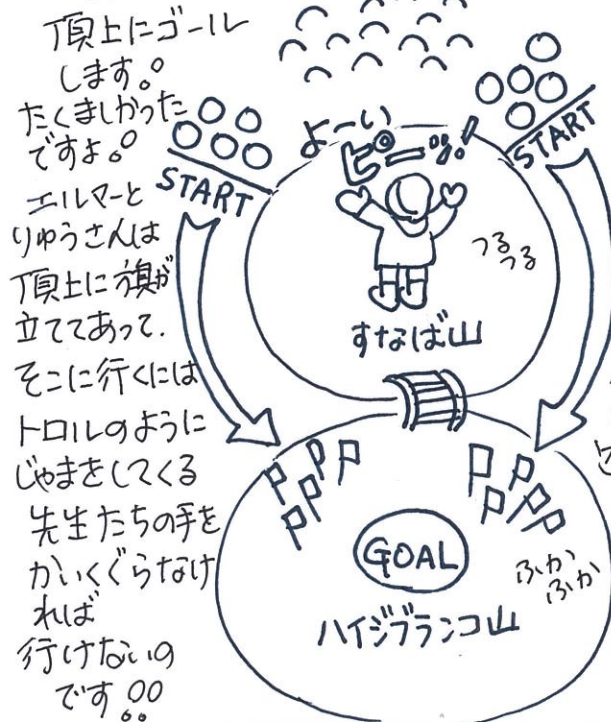


ぐりとくらさんにはもう、かなりたくましくうばい合うように旗を取ってましたよ!



ひとり一本ずつカラフルな旗を持って満足そうにニコニコ笑顔でひんひんしてました。

こんとあきさんからは、奥の山にむかっていっせいに走っていきます。こんとあきさんは、ふもと近くに旗を立てるので、1人1本その旗をもて



頂上にゴールします。たくましかったですよ。エルマとリゆうさんは頂上に旗を立てて、そこに行くにはトロリのようにじまをしてくる先生たちの手をかいくぐらなければ行けないです。



「じゃまなかにはまけないぞー! うわー! おりゃー!」 エルマとリゆうさんのスタート前の雄叫びは、気合いが入ってましたよ!

しかし、トロリ役の先生の雄叫びがそれを上まわっていかも!? とにかくすごい盛り上がりです。



「うわー! おりゃー! まてまて!」 や、やっぱり雪で旗はなくちゃ! キャー! 雪まみれ車かたりよじ登ったり、靴がぬけたり、大笑いのみんなの姿は、いつも元気です。

水がある幸せ・部屋がある幸せ

❀ 元旦から、能登半島の大地震のニュースや、新千歳空港から羽田へ飛んだ飛行機の事故など、被害にあわれた方のご苦勞を思うだけで何もできないまま1か月がたとうとしています。私たちには、暖かい部屋と自由に使える水があり、「めんどくさい」と言いながら洗濯もトイレ掃除も、茶わん洗いも、料理もお風呂も自由にできていますし、振り返ってみると、いつもどんなに多くの水を使っているかと、驚きます。そして、この「日常」が守られているという事が、本当に幸せで、私たちの心と体を元気に保ってくれているんですね。幼い子どもたちには、そこにプラス「遊び」が必要です。聖十字の子どもたちが、コマそりで遊んだり、スキーで楽しんだりしているように、被災地の幼い子どもたちの生活もどうか楽しみで満たされますようにと祈るばかりです。